

「教育の思想と歴史」

マルクス

資本主義

『資本論』

「教育の思想と歴史」第11回 『資本論』

20200727

「教育の思想と歴史」テキスト3冊（デューイ『民主主義と教育』までは取り扱えない）

<https://booklog.jp/users/lifedevelop2020?tag=%E3%80%8C%E6%95%99%E8%82%B2%E3%81%AE%E6%80%9D%E6%83%B3%E3%81%A8%E6%AD%B4%E5%8F%B2%E3%80%8D&display=front>

□プラトン『パイドロス』、ルソー『エミール』が終わり、マルクス『資本論』に。第3分冊まで説明。

①西洋思想の源流 …このプラットフォームを使って読む ↳1867（慶応2 or 3）年

		近代	現代
ギリシャ思想	ルネサンス	市民革命	
キリスト教	宗教改革	産業革命	資本主義
その他（大事）		農業革命	

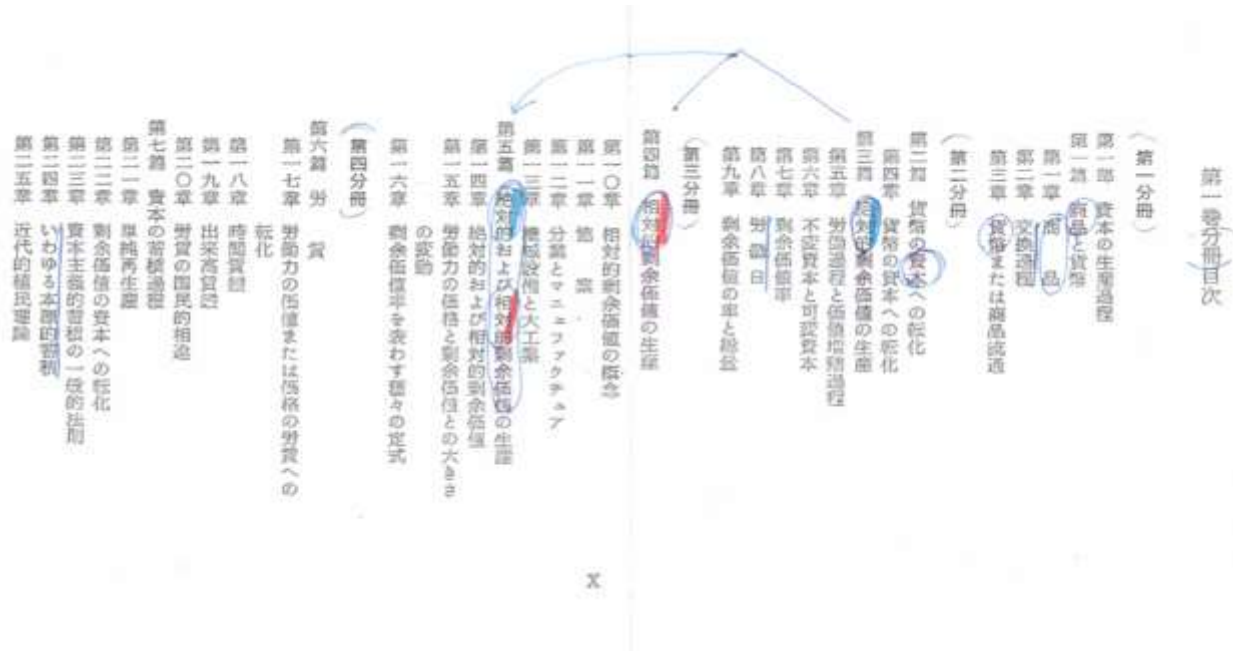
②『資本論』 資本主義というアイデアが論理的にだんだん「想起」されて展開している
叙述に従ってだんだん規定が豊かになり、時に前を否定しながら現実近づいてくる
私は説明を急いでいる関係上、「フライング」がある。「値段」ははるかあと。
現実とのかかわり 1867年…資本主義ははじまったばかり

③「3つの話」の「2つめの話」 では「3つめの話」は???
「1つめの話」・・・サン・シモン、フーリエ 空想的社会主義 →科学的社会主義
ヘーゲル 弁証法的観念論 →弁証法的唯物論
アダム・スミス、リカードー 古典派経済学
「2つめの話」・・・『資本論』

□資本主義社会 実に奇妙な社会 フォームに書いてもらった

商品
貨幣 金 物や金への欲望！ 所有
とてつもない生産力なのに無駄、餓死！！
就活 働けど働けど……
婚活 恋愛
義務教育

□テキストは第1巻の「第3分冊」(出版社の分割) 第1分冊・第2分冊を説明する全体像



□商品

多→一 の弁証法 そして一から展開する (始元) 前を否定していく進行に注意。

商品 A	←交換→	商品 B	2人の対話	
ガソリン 1L	{120 円}	缶コーヒー 1本		
使用価値		使用価値	←欲望	ちがう 質
価値		価値	←理性	おなじ 量

何が同じ？

商品の価値=つくるのに使われた労働力の量 (社会的平均的の必要労働力の時間) (弁証法→一)
→労働価値説 これに依拠しないかのように現象している→アイデアをだんだん想起していく

□貨幣は何？

①簡単な、個別的な、偶然的な価値形態

ガソリン 1L = 缶コーヒー 1本

②全体的な、展開された価値形態

ガソリン 1L = 缶コーヒー 1本 = 鉛筆 8本 = ビー玉 50個 = ...

③一般的価値形態

ガソリン 1L =

缶コーヒー 1本 = 貝殻 400

鉛筆 8本 =

ビー玉 50個 =

:

④貨幣形態 多→一

ガソリン 1L =

缶コーヒー 1本 = 金 x g 貨幣は特殊な商品=何にでも交換 (できそう)

鉛筆 8本 =

ビー玉 50個 =

:

